

# 「産業系廃プラスチックの排出、処理処分に関するアンケート調査」 ご協力をお願い

## ○ ご挨拶

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

弊協会はプラスチックの利用に伴う環境負荷の低減と持続的発展可能な社会の構築に寄与することを目的に、廃プラスチックの循環的な利用に関する調査研究等の活動を行っております。弊協会の活動につきまして、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

現在、生活や産業の様々な場面でプラスチックが利用され、廃プラスチックの有効利用は重要な社会的課題となっております。弊協会が毎年公表している「プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」(マテリアルフロー図) <https://www.pwmi.or.jp/pdf/panf2.pdf> によれば、2021年の有効利用率は87%に達しました。

## ○ 趣 旨

当調査は我が国における廃プラスチックの有効利用率算定を主な目的として行うものです。

弊協会では1999年度より約5年毎に当調査を実施し、様々な業種・事業所を対象に事業活動に伴って排出される廃プラスチックの発生及び有効利用の状況を把握、それに基づき有効利用率を算定してまいりました。多くの事業所のご協力に対して重ねて御礼申し上げます。

この指標は我が国のプラスチック全体の有効利用実績を示す唯一のものであり、国が廃プラスチックに関する政策を検討する場合の基礎となり、社会全体の廃プラスチックの有効利用に対する関心や理解を深める上で大きな意味を持っております。その意味で当調査は非常に公益性の高いものです。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、意のあるところをご賢察頂き、何卒調査にご協力下さいますようお願い申し上げます。ご回答は統計処理され、**個別の社名、事業所名および個別データが出ることは一切ありません。またデータを本調査の目的以外に使用することは一切ありません。**

調査結果につきまして、PDF版としてWEB公開予定(2024年5月頃)としております。ご回答下さった方には電子メールにてご案内致します(つきまして、メールアドレスの明記をお願い致します)。

## ○ 回答方法

調査票A、Bに示した回答方法に従って調査票にご記入の上、下記にご送付下さい。

郵送の場合 同封の返信用封筒にて下記の宛先にご郵送下さい。

〒105-0003 東京都港区西新橋3-15-12 GG HOUSE 5F (株)ダイナックス都市環境研究所  
電子メールの場合 弊協会WEBサイト <https://www.pwmi.or.jp/> にエクセルファイルを添付してありますので、ダウンロードしてご記入の上、下記アドレスにご返信下さい。

E-mail: [haipura2023@dynax-eco.com](mailto:haipura2023@dynax-eco.com)

**調査票ご返送希望期限 2023年8月25日(金曜日)**

## ○ 問合せ先

### ● アンケートの目的・趣旨、弊協会の事業内容・パンフレットについて

(一社)プラスチック循環利用協会 担当: 別府(ベッポ) E-mail: [beppu@pwmi.or.jp](mailto:beppu@pwmi.or.jp)

TEL: 080-6926-5616(直通) または 03-6810-9146(内線16)

弊協会の事業内容は <https://www.pwmi.or.jp/business/> を参照ください。

また、パンフレット [https://www.pwmi.or.jp/new\\_data-pamphlet.php](https://www.pwmi.or.jp/new_data-pamphlet.php) をご利用ください。

### ● アンケートの内容、記入方法について

(株)ダイナックス都市環境研究所(調査委託機関) 担当: 糠沢(ヌカヅ)、小田内(オダウチ)

TEL: 03-5402-5355 FAX: 03-5402-5350 E-mail: [haipura2023@dynax-eco.com](mailto:haipura2023@dynax-eco.com)

2023年7月

関係各位

経済産業省  
製造産業局素材産業課

『産業系廃プラスチックの排出、処理処分に関するアンケート調査』  
に関するご協力依頼について

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

現在、我が国において循環型社会の実現に向けたさまざまな取組みがなされており、廃プラスチックの有効利用は益々重要となっています。

産業界におきましても、このような取組みを進めるとともに、CSR報告書や環境報告書などで産業廃棄物の処理処分の状況を公表する動きが進展・定着してきています。

このような状況を踏まえ、循環型社会形成を一層促進するためには、廃プラスチックの処理状況の実態を随時適正に把握することが必要と考えられます。

一般社団法人プラスチック循環利用協会では、廃プラスチックの処理処分状況を毎年調査し、「プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況」（所謂、マテリアルフロー図）を作成・公表することで、廃プラスチックの再資源化の促進を図っております。そのなかで当該マテリアルフロー図の精度を向上させるべく、5年毎に、プラスチックを廃棄する企業に対し、排出や処理処分の実態について総合的に把握するためのアンケート調査を実施しています。

全国の産業系廃プラスチックを対象に業種別、種類別に排出や処理処分の実態を調査している例は他になく、得られた結果は、当該マテリアルフロー図の精度向上に活用されるとともに、企業にとりましても、ベンチマーキングへの利用等、有用な知見になるものと思われまます。

経済産業省といたしましても、本調査の実施は有意義と考えておりますので、ご多忙中大変恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、円滑な推進にご協力下さるようお願い申し上げます。

敬具

# 廃プラスチック類の種別ごとの調査票（調査票B） 質問及び選択肢の解説

- ・回答は回答方法の説明に従い、**各種別ごとに質問A～Oの順に縦にご回答**願います。
- ・【選択肢】は**一つだけ**選んでください(手書きは○を付け、エクセル入力時はドロップダウンリストから選択してください)。
- ・【数値】の質問には数字をご記入ください。
- ・特定の選択肢を選んだ場合、説明に従ってご回答ください。
- ・一部の業種のみを対象とした質問もあります(質問F)。
- ・具体例(質問B、質問C)・用途例(質問D)で示す内容は一例です。実際の品目の状況に応じてご回答を選択ください。

**質問A 発生源** 下記の説明を参考に、廃プラスチック類の発生源を確認したうえでご回答ください。

製造業		建設業		非製造業	
発生源	説明	発生源	説明	発生源	説明
1 製造工程不良物等	製造工程で発生する製品の不良品等	1 建設・補修工事による端材・残材	建設工事・補修工事に伴って出る端材・残材	1 事業活動による廃プラスチック類	事業活動に伴って発生する廃プラスチック類
2 製造工程発生くず	製造工程で発生する裁断くず、端材等	2 補修・解体工事による廃材	補修工事・解体工事に伴って出る廃材	—	—
3 梱包材・輸送材等	仕入材のうち、自社製品の梱包・輸送材	3 梱包材・輸送材等	製造業「3」と同じ	2 梱包材・輸送材等	製造業「3」と同じ
4 その他		4 その他		3 その他	

「製造工程不良物等」、「製造工程発生くず」は自社工場の製造ラインにおいて発生するもの。  
 「梱包材・輸送材等」は仕入材自体は自社製品ではなく、外部から持ち込まれたもの(ただし、『事業系一般廃棄物』に該当するものは除外)。  
 「その他」は従業員衣服や工具類等。

**質問B 分別状態** 下記の説明・具体例を参考に、廃プラスチック類の分別状態を確認したうえでご回答ください。

分別状態	説明	具体例
1 単独樹脂	単一の樹脂のみで排出	ポリエチレン製の梱包材、硬質ポリ塩化ビニルの成形品くず
2 複数の樹脂の混合排出	2種類以上の単独樹脂が混ざって排出	ポリエチレン製とポリプロピレン製の梱包材が混ざって排出
3 複数の樹脂の複合材	2種類以上の樹脂の貼合わせやコンパウンドとして排出	2種類以上の樹脂をラミネートしたシートの切削くず
4 プラスチック類以外の廃棄物と混合	プラスチック類以外の複合材や他の廃棄物と混合して排出	樹脂とガラス繊維を混練して射出成形した成形くず、フィルムをラミネートした紙を排出、梱包材と紙くずを一緒に排出

**※廃棄物に含まれるプラスチック類の割合** 質問Bで「4 プラスチック類以外の廃棄物と混合」を選択した場合は、廃棄物に含まれるプラスチック類のおおよその割合を記入してください(概算で結構です)。

**質問C 形状** 下記の具体例を参考に、廃プラスチック類の形状を確認したうえでご回答ください。

形状	具体例	形状	具体例
1 ペレット	3～5mm程度の粒状にした樹脂	7 成形品類	板(1mm厚以上)、管、棒、家電・自動車部品・医療器具等の射出成形品、発泡スチロール類等
2 塊(ランプ、ダンゴ)	樹脂のかたまり、タイヤ	8 ひも類	ロープ・紐、包装用バンド、包装用ネット等
3 細片・粉末	細片(フレック、フラフ、グラッシュ)・粉末(パウダー)	9 クロス類(編物、織物)	フレキシブルコンテナバッグ、ブルーシート等
4 繊維	合成繊維(ナイロン、アクリル、ポリエステル等)	10 容器類	運搬容器(コンテナ)、液体容器(タンク、ボトル)等
5 フィルム・シート類	1mm厚未満	11 液体・スラッジ	塗料、プラスチックを含む汚泥等
6 袋等	肥料袋・飼料袋・米袋等の重包装袋、レジ袋等のポリ袋等	12 その他	

※ブルーシートは「5 フィルム・シート類」ではなく、「9 クロス類(編物、織物)」に分類される。  
 ※フレキシブルコンテナバッグ(フレコンバッグ、フレコン)は「5袋等」ではなく、「9 クロス類(編物、織物)」に分類される。

**質問D 材質** 下記の特徴・用途例を参考に、材質を確認したうえでご回答ください。材質ごとの割合が不明な場合も分かる範囲で複数お答えください。どうしても分からない場合は最も多い材質をご回答ください。

	樹脂の種類	特徴	用途例
熱可塑性	ポリエチレン(PE・エチレン酢ビコポリマー)	軽い、柔軟、電気絶縁性良好、耐薬品性良好、耐水性良好	包装用・農業用フィルム、びん、電気絶縁材料、日用品、運搬箱、レジ袋、ブルーシート
	ポリプロピレン(PP)	PEに類似、軟化点高、繰り返し折曲げ耐性良好	PEと大体同じ。コンテナ、食器、二軸延伸フィルム、フラットヤーン、フレキシブルコンテナバッグ
	塩化ビニル樹脂(PVC)	軟質：透明性、光沢性良好、電気絶縁性良好、酸素遮断性良好、耐候性良好 硬質：耐腐食性良好、耐薬品性良好、耐油性良好、難燃性良好、電気絶縁性良好、軽くて加工が容易、着色・印刷性が良い	包装用・農業用フィルム、電線被覆、人工皮革
	ポリスチレン(PS)	軟化点低、電気絶縁性良好、耐薬品性良好	雑貨、玩具、食卓用品、電気部品、断熱材(建材、包装用発泡品等)
	ペット樹脂(PET)	耐熱性良好、電気絶縁性良好、耐薬品性良好、延伸フィルムは強靱	ペットボトル、磁気テープ、包装材料、ホットスタンピング用転写紙、ポリエステル繊維
	ABS樹脂(ABS)	強靱、光沢性良好、耐薬品性良好、耐油性良好	電気機器ハウジング、自動車部品、事務機材料(合成木材)
	AS樹脂(AS)	強度大、PSより耐熱性良好、耐油性良好	電気部品、文具、日用品
	ポリカーボネート樹脂(PC)	易成形、透明性、強靱、耐薬品性良好、耐候性良好、難燃性、耐寒耐熱性良好	CD・MD、携帯電話
	ポリアミド樹脂(PA・ナイロン)	強度大、耐寒耐熱性良好	台所用加熱調理器具、ファスナー、レトルト食品の袋、釣糸
	フェノール樹脂(PF)	電気絶縁性、強度大、耐熱性良好、耐酸性良好	電気機器、通信機器、機械部品、接着剤、断熱材
熱硬化性	ウレタンフォーム(PUR)	耐衝撃性良好、断熱性良好、保温性良好、劣化が速い	断熱材(建材、クーラーBOX内部の保温材等)
	エポキシ樹脂	耐腐食性良好、電気絶縁性良好、耐水性良好、耐薬品性良好、耐熱性良好、耐候性良好	コンポジット材料、塗料、接着剤
	不飽和ポリエステル(UP)	低圧形成が可能で、ガラス繊維により、補強されたものは強靱、電気絶縁性良好、強度大	ガラス繊維強化プラスチック(FRP)、貯水槽、浴槽、ボード
	合成ゴム(天然ゴムは除く)		タイヤ

**質問E 発生量** お答え頂いた廃プラスチック類（種別）の1年間の発生量を記入してください（概算で結構です）。発生量を容積で把握している場合は、下記の表を参考におおよその重量に換算してご回答ください。

廃プラスチックの種類	重量換算係数(t/m3)	廃プラスチックの種類	重量換算係数(t/m3)
廃プラスチック	0.35	発泡スチロール	0.02
廃タイヤ	0.20	発泡ウレタン	0.02
自動車用プラスチックバンパー	0.20	発泡ポリスチレン	0.03
廃農業用ビニール	0.20	塩化ビニル製建設資材	0.20
プラスチック製廃容器包装	0.10		

出典：産業廃棄物の種類ごとの集計単位と重量換算係数 Ver. 1.4(公財)日本産業廃棄物処理振興センター(JWセンター)  
[https://www.jwnet.or.jp/assets/pdf/jwnet/gvouseihoukoku\\_jyuuryoukanzankeisuu.pdf](https://www.jwnet.or.jp/assets/pdf/jwnet/gvouseihoukoku_jyuuryoukanzankeisuu.pdf)

★製造業は2022年度の発生量のみ、建設業及び非製造業は2018～2022年度の発生量が対象です。

**質問F プラ製品生産量・プラ原料投入量（製造業の「化学工業、プラスチック製品製造業」のみ対象）**

質問A（発生源）で製造工程不良物（1）又は製造工程発生くず（2）を選択した場合は、お答え頂いた廃プラスチック類（種別）発生の原因となっている貴事業所のプラスチック製品（部品・容器包装を含む）の生産量について2022年度（令和4年度）の1年間の値を記入してください。金属等を含む最終製品一例えば自動車、電気製品等一の重量ではありません。生産量を容積で把握している場合は、質問Eの表を参考におおよその重量に換算してご回答ください。

もし生産量の記入が難しい場合は、下記についてご記入ください。

○【プラスチック製品の生産・加工に原料として投入したプラスチック類の量】

プラスチック製品の生産・加工に原料として投入したプラスチック類の量を記入してください。

**質問G 汚れ状況** 水濡れだけの場合、汚れには含めません。

**質問H 一時保管状況** 発生した廃プラスチック類が処理・処分の主体に引渡される前段階において、一時的に保管される場所の状況（屋内又は屋外）をご回答ください。

**質問I 処理・処分の主体** 1、2は自社、3、4は再生事業者、5は処理業者、6は納入事業者または納品事業者、7は自治体が「主体」となります。

**質問J 処理・処分の場所** 前問の質問Iの主体が存在している所在地をお選びください。

**質問K 処理・処分の方法** 下記の説明を参考に、処理・処分の方法を確認したうえでご回答ください。

処理・処分の方法	説 明
1 再使用	修理したり、用途を変更したりして再使用すること
2 再生プラスチック原料化	廃プラスチック類を粉碎・熔融等することにより、成形加工のためのプラスチック原料として再利用すること
3 高炉還元材利用又は コークス炉原料	・高炉還元材利用：製鉄所の高炉で使用する還元材コークスや微粉炭の代替として、廃プラスチック類を利用すること ・コークス炉原料：製鉄所のコークス炉で、石炭と共に廃プラスチック類を熱分解して、炭化水素油・コークス等で利用すること
4 熱分解油化	廃プラスチック類を加熱し熱分解し、生成した油を燃料等として再利用すること
5 熱分解ガス化	廃プラスチック類を加熱し熱分解し、生成した水素ガスを化学工業原料として再利用すること。または、生成ガスで発電を行ったり、燃料ガスとして再利用すること。
6 固形燃料化	廃プラスチック類単独もしくは紙、木等と混合して固化し、燃料として利用すること
7 セメント工場での利用	セメント焼成時に、可燃分は燃料とし、不燃分は原料として廃プラスチック類を利用すること
8 焼却(発電利用)	焼却炉にて廃プラスチック類を焼却する際に発する熱エネルギーを電気として回収すること
9 焼却(温水・蒸気利用)	焼却炉にて廃プラスチック類を焼却する際に発する熱エネルギーを温水・蒸気として回収すること

**質問L 売却処分の状況** 数量はトンあたりの売価又は処理費をお書きください。処理費には運搬費を含みます。

**質問M 売却物の形状** 質問Cの表を参考に売却物の形状を確認したうえでご回答ください。

**質問N 中間処理方法** 選択肢1、2の定義は以下のとおりです。

- 1 圧縮・熔融減容化…圧縮機によって圧縮する方法又は加熱して液化することで減容する方法
- 2 破碎…せん断式破碎機によって細かく分断する処理方法

**質問O 再生製品の用途** 当協会WEBサイト（下記URL参照）のパンフレット一覧のページでダウンロード可能なPDFファイル「プラスチックリサイクルの基礎知識 2023」の17頁に記載されているリサイクル製品等をご参照ください。[https://www.pwmi.or.jp/new\\_data-pamphlet.php](https://www.pwmi.or.jp/new_data-pamphlet.php)

以上